

# レコーディング用(オーディオインターフェースApollo x16簡単設定)

## [オーディオインターフェースの接続状況]

マイクプリ1ch~16ch ⇒ Apollo X16 INPUTS LINE1~16

\*マイクプリ16chだけコントロールルーム内(マイクプリの下)に入力端子

Apollo X16 OUTPUTS MON L&R ⇒ モニタースピーカーL&R(MONITOR)

Apollo X16 OUTPUTS LINE1&LINE2 ⇒ モニターヘッドフォンL&R(ALT1)

Apollo X16 OUTPUTS LINE3&LINE4 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用L&R

Apollo X16 OUTPUTS LINE5 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用SUB1

Apollo X16 OUTPUTS LINE6 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用SUB2

Apollo X16 OUTPUTS LINE7 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用SUB3

Apollo X16 OUTPUTS LINE8 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用SUB4

Apollo X16 OUTPUTS LINE9 ⇒ スタジオにあるOUT9端子へ


Apollo X16 OUTPUTS LINE10 ⇒ スタジオにあるOUT10端子へ

Apollo X16 OUTPUTS LINE11 ⇒ スタジオにあるOUT11端子へ

Apollo X16 OUTPUTS LINE12 ⇒ スタジオにあるOUT12端子へ

Apollo X16 OUTPUTS LINE13~16 ⇒ 未接続

先にパソコンを立ち上げてからオーディオインターフェースの電源をオンにする。

 ConsoleアイコンをクリックしてConsoleを起動する。



① **SETTINGS** をクリック。



② **HARDWARE** をクリック。

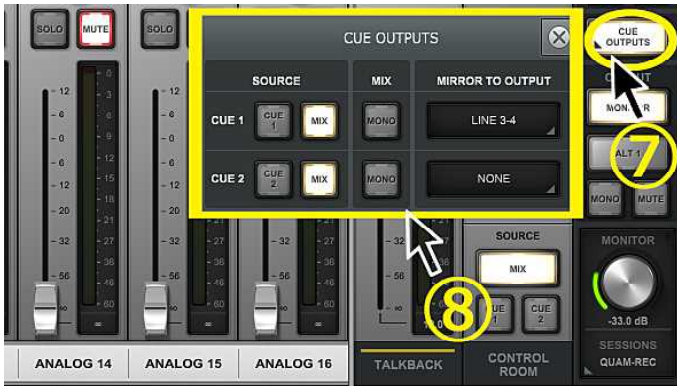
③ **ALT COUNT** を **1** にする。

④ **CUE BUS COUNT** を **2** にする。



⑤ **I/O MATRIX** をクリック。

⑥ **MODE** を **Default** にする。



- ⑦ **CUE OUTPUTS**をクリック。
- ⑧ **CUE1** = SOURCEは**MIX**  
MIRROR TO OUTPUTは**LINE 3-4**  
(スタジオ演奏者用ヘッドフォン)  
**CUE 2** = 使用しないので  
MIRROR TO OUTPUTは**NONE**

※これで**モニター(スピーカー&ヘッドフォン)**と**キューボックスのL&R(演奏者用ヘッドフォン)**へ同じモニター音が送られます。

※キューボックスのサブチャンネル(OUTPUTS LINE 5~8)を使ってモニター音以外の音も送りたい場合はお使いのDAWソフトのコントロール機能やI/O機能などで設定してください。



- ⑨ **SESSIONS**をクリック。
- ⑩ **QUAM-REC**を**ダブルクリック**。



左の表示が出た場合は**DON'T SAVE**を選ぶ

※ANALOG1~16がミュートされますが、オーディオインターフェースに入力された音はそのままDAW側にも送られているのでDAW側で音量調節してください。

**[ダイレクトモニタリング]**音の遅れが気になって演奏できない場合のみユニバーサルオーディオのコンソールのミュートを外し音量フェーダーを上げてください。その場合は必ず上げたフェーダーのDAW側のトラックはミュートするかモニター機能をオフにするなど音が出ないようにしてください。パソコンを経由しないユニバーサルオーディオのコンソールの方が音が速く、パソコンで処理するDAWソフトの方が少し音が遅いので同時に音を出すとディレイがかかった変な音になります。二重に音が出ないように必ずどちらか一方だけ音を出してください。

※ユニバーサルオーディオのコンソールを使用する場合、ANALOG1~16の名前の部分をクリックすると名前を自由に変更(英語のみ)できます。



- ⑪ モニターの切り替え  
**MONITOR**ボタンでスピーカー。  
**ALT1**ボタンでヘッドフォン。



- ⑫ **CTRL ROOM**ボタンを点灯。
- ⑬ **TALK**ボタンが点灯している間だけコントロールルームの録音エンジニアの声がスタジオの演奏者のヘッドフォンに聞こえる。

トークバックマイクはアポロに内蔵